

# 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次実施計画との関連		有・無
<input type="checkbox"/> 有		
<input checked="" type="checkbox"/> 無		

## 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	ひまわりひろば事業							
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	健康課	係	健康推進係	評価票作成者	母子保健担当係長 加藤育子
1-3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			基本施策	母子保健	コード	2 1 2
	項	健康			単位施策(中)	乳幼児等の健康と安全の確保	コード	2 1 2 2
					単位施策(小)	子どもの心と身体の健康づくりの推進	コード	2 1 2 2 4
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	1歳児を持つ親子		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	親子での遊びや親子同士の交流を通して、親自身の自尊感情が高まることで子どもと親相互の健やかな育ちあいにつながる。			
1-5 事務事業の内容	「ひまわりひろば」は、子育て支援グループの「ひまわりっこ」への委託事業で、NPOや大学教授など専門知識を有する方々を講師として6回シリーズの講座を開催している。							

## 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み 現役の母親の視点を生かした企画運営により、地域での子育てを支援する。	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握 地域での人間関係の希薄化など子育てが孤立しやすい環境のなかで育児不安を抱えるケースが増えている。	市民ニーズの認識 友達づくりや自分を見つめ直す機会になったこと、また今も昔も子育ては大変だけど楽しいこともあるという気づきになったよう。
	平成19年度	〃	〃	参加希望が多くニーズの高さが伺える。
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	「ひまわりひろば」参加組数(定員20組)		100(組)	100(組)	子育て支援事業の充実と子育てを支援する自主グループ活動状況を表す指標 年間延参加組数 【資料】とよあけの保健

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(組) 直接事業費 b(千円) 人件費 c(千円) 合計コストd (b+c) (千円) 単位コスト d/a (千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		活動実績 a(組)	103	100							
直接事業費 b(千円)	156	156									
人件費 c(千円)	109	102									
合計コスト d(b+c)(千円)	265	258									
単位コスト d/a(千円)	組 当たり 3	組 当たり 3	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 【直接事業費】委託料 156,000円 【人件費】32時間 3,200円×32=102,400円 定員20組

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	103(組)	100(組)								
	後期目標値に対する達成度(%)	103.0(%)	100.0(%)								

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A								

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
  - B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
  - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
  - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
  - 公共性(公が実施する意味があるか)
  - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
  - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
  - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
  - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
3 - 2 評価の内容	平成18年度	定員の倍以上の申し込みがあり、ニーズの高さが伺えるがこのことへの対応策の検討が必要。	講座終了後の参加者同士のつながりへの支援と、子育てにかかわる行政関係者との連携をとっていきたい。	子育て支援グループのバックアップをしながら参加者の満足度の高い事業とすることができた。さらに事業を通して地域で活動しているグループや講師とのつながりができた。
	平成19年度	子育てが孤立しないためにもなるべく多くの方が参加し仲間作りができるような企画を検討していく。	メールの申込で行き違いが生じたことから、次年度からは申し込み方法をメール以外の方法も併行して導入する。	教室を前期と後期に分けて開催し参加対象児も整理するなど工夫がなされた。昨年に引き続き子育て支援グループのバックアップに努めた。
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
4 - 1 総合評価の結果	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		